

① 狭隘な東京港において、港全体の機能強化を図っていくためには、利用頻度の低下したふ頭や水域を、今後どのような用途・目的で活用すべきか

（※水域については第5回で検討）

施策の方向性	施策のイメージ
取扱貨物量や利用船舶の動向を踏まえあり方を検討	<ul style="list-style-type: none"> 取扱貨物量や岸壁利用頻度の低下したふ頭等について、集約化や利用転換を検討する（新たなニーズ※への対応等） <p>※例：今後の情勢変化に柔軟に対応できる多目的な岸壁、次世代エネルギー等</p>

② ユニットロードターミナル・フェリーターミナルのヤード不足に対応するため、どのような取組が必要か

施策の方向性	施策のイメージ
ヤードを拡張する	<ul style="list-style-type: none"> ユニットロードターミナルのヤード拡張、新規ふ頭整備等 野積場の多層利用による機能強化 場外シャーシ置き場の整備
荷役効率を向上させる	<ul style="list-style-type: none"> ヤード内シャーシ・完成自動車の位置情報共有による、搬出入作業の効率化 自動運転トレーラによる効率化

「検討の視点」を踏まえた施策の方向性（案）

③

労働力不足が危惧される中、働きやすい港づくりを行い、港湾の生産性を向上させるためには、どのような取組が必要か

施策の方向性	施策のイメージ
誰もが安心して働ける職場環境を整備する	<ul style="list-style-type: none">• 自動運航船、自動離着岸装置、自動運転トレーラ等による効率化の実現• DXの推進により、安全で快適な生産性の高い職場環境の実現• ユニバーサルデザインの推進• みなとの駅（仮称）の整備（大型トレーラが駐車可能、コンビニ・食堂・休憩・交流施設）• トイレや休憩施設等の充実• 保育所・託児所の整備
通勤手段を確保する	<ul style="list-style-type: none">• 交通手段の充実（路線・頻度・定時性の確保）• 自動運転等の最新交通手段の導入